

第57回宇宙理学委員会議事録

日時：平成29（2017）年7月5日（水）11:00～13:20
場所：宇宙科学研究所 研究管理棟1階入札会議室(1134)

出席者：井口委員、一本委員、今村委員、上野委員、金田委員、河合委員（TV）、倉本委員、郷田委員、齋藤委員、篠原委員、清水委員、田代委員、田中委員、中川委員、橋本委員、羽澄委員、三好委員、山岸委員、山田委員、吉田委員、渡邊委員
宇宙研：常田所長、満田研究総主幹、佐々木部長
説明者：海老沢教授、塚本特任教授、春山助教、ひさき山崎PM
事務局：科学推進部青柳計画M、和木、石崎、早川

委員長選出まで所長が司会進行した。

1.（欠番）

常田：所長挨拶は午後の理工学合同委員会で行う。

2. 委員自己紹介

各委員が簡単な自己紹介を行った。

5. オリエンテーション

資料05に基づき、山田（第7期幹事団として）より説明があった。

吉田：手続きの点はどういい成果に持っていくかの議論になるべき、どういうミッションを立てたら宇宙科学が上手くいくのかというミッション創生の戦略性を考える場である。

3. 理学委員長選出

山田委員が理学委員長に選出された。

司会を山田に交代。

山田：宇宙研の大変な状況の中で推薦いただいたことは身が引き締まる思い。高い見識をお持ちの方がいる中で選んでいただいたので、委員の協力を得て、宇宙科学の発展に尽力したい。

4. 副委員長／幹事指名

副委員長として渡邊委員、幹事として清水・篠原・山崎委員が指名され、承認された。

6. 今期の理学委員会の進め方

山田委員長より、前幹事として準備した投影資料を用いて今期の進め方について説明があり、前期からの課題、理工学合同委員会と理学委員会でのタスクの住み分け、理学委員会が果たすべき役目の明確化、について議論した。

山田：公募型小型に関して次回（9月）の委員会での重要議題である。宇宙研のプロジェクトに係る業務改革の状況も踏まえて、理工学委員会として、提案について、何をどこまで評価するのかということを確認することが次回の委員会が必要である。

7. 専門/サブ委員会設置（理学⇒理工学）

春山（藤本の代理）より、資料7に基づき国際宇宙探査専門委員会の設置について説明があった。午後の理工学委員会に提案予定の内容である。

渡邊：有人探査にどう科学が関与するかは種々難儀な問題（予算など）がある。その調整を個々に勝手にや

って良いのかという課題があり、科学側がこのような委員会をきちんと持って評価して実現化を目指すことが大事である。

8. CALETノミナル運用終了審査

満田から、資料8に基づき説明があった。CALETの定常運用が終わり、その科学評価について行って欲しいという依頼。後期運用実施の可否、ISSフラグシップミッションとしての国際評価。スケジュールは9月末までに評価結果が欲しい。

山田：速やかにメール審議をして評価委員会を設置する。

9. 平成28年度戦略的開発研究費成果評価結果・平成29年度採択結果報告

中川(戦略経費審査委員長)より、資料9に基づき戦略的開発研究経費の評価結果の説明があった。内容は前委員会でメール審議承認済みだが、情報共有として報告。

10. 平成28年度搭載機器基礎開発研究費成果評価・平成29年度採択結果報告

海老沢(搭載機器審査委員長)より、資料10-1~4により搭載機器評価結果の評価結果について説明があった。内容は前委員会でメール審議承認済みだが、情報共有として報告。

11. ひさき延長審査

ひさき山崎プロマネより、資料11に基づき、国際レビューの実施結果およびひさきチームからの回答について説明があった。

12. DESTINY+, JASMINE進め方

山田より、資料12に基づきDESTINY+およびJASMINE審査過程の経緯について説明があった。

13. キュレーション専門委員会

山田がキュレーション専門委員会の趣旨や今期委員候補について説明があった。

塚本キュレーションG長が、本年度のキュレーションGの活動計画の概要を口頭で説明した。

14. 大学等におけるISASミッションのデータ整備状況について(報告)

資料配布。

15. メンバ申請・退会について

申請および退会メンバを承認。

事務局：メンバ名簿が個人情報登録名簿となったため、管理方針をHP等へ周知する。

以上